

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 3 日現在

機関番号：33917

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370319

研究課題名(和文) 環境美学のイデオロギー編成 ロマン主義時代の環境主義と庭園と職人・農民詩人たち

研究課題名(英文) Romantic Environmental Aesthetics

研究代表者

Tee Ve-Yin (Tee, Ve-Yin)

南山大学・外国語学部・講師

研究者番号：10387649

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究グループでは近代の環境主義の端緒とみなされるイギリス・ロマン主義時代の環境意識の中流階級性を検分し、さらにロマン主義的イデオロギーを牽引した芸術家たちの作品を同時代の異なる階層出身者の言説、労働者や農民の詩作品や記述および上流階級の著作物と比較検討することで出身階級の差によって表れる環境美意識の違いを考察した。これにより地球の生態系や気候に大きな影響を与えるようになった産業革命以降の時代の人間の自然に対する相矛盾した姿勢が明らかとなったが、それは21世紀における自然との関係性をも示唆するものである。その成果をすでに様々な研究会で発表したが、今後は学術雑誌と書籍で公表する予定である。

研究成果の概要(英文)：Through this project, my research partners and our overseas collaborators have not only demonstrated the extent to which modern environmentalism is a middle-class aesthetic inherited from the Romantic period, but also tried to highlight the alternative perspectives of working- and upper-class people from the same time period. Owing to the funding received, I have organized two symposiums at Nanzan University, and my partners and I have shared the results of our collaboration at a number of domestic and international conferences. 'The Moral Language of Nature', which has been published at a leading international journal, is the direct result of the high-level discussions that we've had. 'Coleridge's Aesthetics of Enclosure', 'The Genealogy of the Scientific Sublime' are two more examples of academic papers and chapters that have been produced as a result of the funding received, and which should soon appear in print.

研究分野：英文学

キーワード：environmentalism 環境主義 階級 ロマン主義 美意識 自然 nature Romanticism

1. 研究開始当初の背景

北米、西ヨーロッパ、日本などの先進諸国の経済発展が、それぞれの国民生活や共同体、生態系の犠牲の上に成り立っていることが明瞭になって以後、そのあり方には疑問符が付されてきた。同時に中国やインドのように膨大な人口を抱えた国々が産業の目覚ましい進展を遂げ、エネルギー消費を拡大する時代にあつて、地球環境全体の保全や持続的な維持が急務の課題として叫ばれている。そうした中で文学批評においては、1990年代から Jonathan Bate などがロマン主義文学、とくに William Wordsworth の詩に環境への鋭敏な意識を読み取り、そこに現代的な環境主義の源泉を探っていった (Romantic Ecology, 1991)。環境主義に対する文学批評からの意義ある貢献であったといえよう。その後、とくに北米において環境批評は急展開を遂げた。

私もこうした批評的潮流のなかでイギリス・ロマン主義を研究しはじめたために、ごく自然に文学と環境問題との関連性についての意識を共有することになった。もともとは S.T. Coleridge 研究から出発し、2009年にはイギリスの Continuum 社から単著も出したが、それ以降このロマン主義と環境との関連に研究対象を広げ、とくに美学的なものとして環境がどう意識されていたのかについて個人調査を進めてきた。ワーズワスの 1790年代の作品に的を絞り、2009年の学会で口頭発表をした後、論文“A Less than Green and Pleasant Land; or, the Young Wordsworth’s Environmentalism”を 2011年度に学術雑誌 *Illuminazioni* に掲載した。いわゆる産業革命期に荒廃するイギリス北部の農村地帯においてワーズワスの美意識がどう形成されていったかを詳細に検証したものであるが、その過程で土地を追われる農民たちとの距離を保ったワーズワスの中流階級的イデオロギーの異質性に着目することになった。

もちろん、これまでもワーズワスの階級意識については、Marjorie Levinson などをはじめとする(新)マルクス主義批評が指摘してきたことは確かであるが、それらは抽象的な議論に終わり、また環境批評においても大きな問題として取り上げられてこなかった。

環境に対する美意識の中流階級性は、William Whewell という 19世紀初頭の科学者であり、キリスト教的環境主義者の先駆者ともいえる人物を、ワーズワスと比較しながら研究しはじめるとして、とくに重要な側面として浮かび上がってきた。現代にまでいたる環境主義はいわば両者に共通してみられる中流階級的美学の延長線上に捉えるべきではないかと考えている。Whewell については日米で口頭発表を行い、調査を継続中だが、本研究では環境美学の概念全体が 18世紀半ば以降に形成されていく過程で階級の意識がどう関与したかを探究したいという思いが強くなり、本共同研究に着手することになった。

2. 研究の目的

文学領域でも環境批評が盛んな近年の研究状況をかんがみて、本研究はイギリスのロマン主義時代における環境への意識をとくに労働者や農民といったこれまであまり着目されてこなかった人々を含めて焦点を当て、美学的な見地から検証する事を目的とした。ワーズワスを筆頭とするロマン主義文学に環境主義の源泉を求めることは現在定説となっているが、その中流階級性について環境批評は無自覚なままである。本研究では、「環境美学」(environmental aesthetics) という概念を提示し、マルクス主義的なアプローチに陥ることなくこの時代の社会変容や環境問題を歴史的に考察することで、その中流階級的なイデオロギー構成を明らかにし、その上で同時代の労働者や農民たちの環境に対する美意識を言説上から比較・考察す

ることを試みた。風景庭園などの美学的・文学的研究は多くの蓄積があるが、国内外の研究者と3年間の共同研究として行い、より広い環境美学という範疇からそれらを再検証し、これまで看過されがちであった社会階層を考察対象に含めることで、環境批評の潜在的な価値を掘り起こすことを目指した。

3. 研究の方法

(2013年)初年時、ロマン主義時代における中流階級の環境美学や環境に対する感覚を論文“The Moral Language of Nature”で分析し、論じた。この論文に基づいて、本科研グループの分担者(勝山氏と大石氏)との研究が始まった。また、この研究課題に興味を持つイギリスの研究者を探し、Dias氏、Higgins氏とWhite氏の協力を求めた。

(2014年)研究の幅をさらに広げるため、もう一人分担者(大田垣氏)を招待した。同年、4月20日に南山大学において、“British Environmental Aesthetics”というタイトルのシンポジウムを開催した。予定通り、Dias氏、大石氏、そしてWhite氏がイギリス環境美学に関する研究発表を行った。さらに6月21日に南山大学において、“British Environmental Aesthetics”シンポジウムの第二部を開催した。今回はHiggins氏が研究発表を行った。

(2015年)分担者と数回に渡る打ち合わせを行った。その後、最終的にはロマン主義時代の上流階級と労働者階級の環境感覚に関する“Coleridge’s Aesthetics of Enclosure”というタイトルの論文を執筆し、研究成果として纏めた。各々の分担者もロマン主義時代の環境美学に関する研究を進め、関連学会や研究会での研究発表や出版に向け、活発な議論や意見交換を行った。

4. 研究成果

研究結果を学会及び研究会において、2回発表した。一つは、国際学会において、もう一つはイギリス・オックスフォードでの招待講演として成果を発表した。また、本課題に関する2点の論文を執筆し、それらはイギリスの学術論文誌において掲載された。大石氏は研究成果として研究発表を行い、本研究に関する論文を執筆した上で、1冊の図書として出版した。勝山氏は研究結果を学会及び研究会において2回発表した。本研究に関連する著書についても書評を行い、学会誌に掲載された。大田垣氏は研究結果を学会、研究会において2回発表した。また本研究に関する論文を2点執筆した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5件)

1. Ve-Yin Tee, Coleridge’s Aesthetics of Enclosure, Romanticism and Victorianism on the Net, 査読有、Vol. 未定、2016

2. Ve-Yin Tee, The Moral Language of Nature, Romanticism, 査読有、Vol. 21, No. 2, 2015, pp. 160-170、<http://dx.doi.org/10.3366/rom.2015.0226>

3. 大田垣 裕子, 「湖水案内」試論—「カークストーン峠」を越えて、プール学院大学研究紀要、査読無、56巻、2015、1-12

4. 勝山 久里, 書評サミュエル・テイラー・コウルリッジ「文学的自叙伝—文学者としての我が人生と意見の伝記的素描」、イギリスロマン派研究(イギリスロマン派学会)、査読有、38巻、2014、96-100

5. 大田垣 裕子, 「空知川の岸邊」: 近代ヨーロッパ歩文学の流れに沿って、プール学院大学研究紀要、査読無、55巻、2014、1-10

〔学会発表〕(計 7件)

1. 大田垣 裕子, アン・ヤーズリー(Ann Yearsley)とカーク・ホワイト(Kirke White)の歩行詩比較—階級差による環境美意識の考察—、関西コウルリッジ研究会、同志社大学(京都府京都市)、2015年11月28日

2. 勝山 久里、中国への眼差しと階級意識の台頭：イギリス・ロマン主義文学、美学と交易、第 41 回イギリス・ロマン派学会全国大会、奈良教育大学(奈良県奈良市)、2015 年 10 月 27 日

3. 勝山 久里、階級から見る中国庭園の美学：ワーズワース「序曲」第八巻における「萬樹園」、第 166 関西コールリッジ研究会例会、同志社大学(京都府京都市)、2015 年 6 月 27 日

4. Ve-Yin Tee、Contested Landscapes、English and Modern Languages Seminar Series、Oxford Brookes University (イギリス)、2015 年 4 月 23 日

5. Ve-Yin Tee、Thinking Landscapes、Coleridge and Contemplation、京都ノートルダム女子大学(京都府京都市)、2015 年 3 月 29 日

6. 大田垣 裕子、Toson's Chikuma River Sketches and its Historical Background of Modern European Pedestrian Literature、Romantic Connections、東京大学(東京都文京区)、2014 年 6 月 14 日

7. 大石 和欣、William Cowper、Evangelical Sensibility、and Environmental Aesthetics、Environmental Aesthetics、南山大学(愛知県名古屋市)、2014 年 4 月 20 日

〔図書〕(計 1 件)

1. 大石 和欣 他、文部出版、The Genealogy of the Scientific Sublime: Glaciers, Mountains, and the Alternating Modes of Representation、2015、286

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：

番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

TEE, Ve・Yin

南山大学・外国語学部・講師

研究者番号： 1 0 3 8 7 6 4 9

(2)研究分担者

勝山 久里 (KATSUYAMA, Kuri)

京都造形芸術大学・芸術学部・教授

研究者番号： 0 0 3 5 1 3 6 2

(3)研究分担者

大石 和欣 (OISHI, Kazuyoshi)

東京大学・総合文学研究科・准教授

研究者番号： 5 0 3 4 8 3 8 0

(4)研究分担者

大田垣 裕子 (OTAGAKI, Yuko)

プール学院大学・国際文化学部・教授

研究者番号： 2 0 2 9 0 3 3 0

(5)研究協力者

WILLIAMS, Laurence